

2年ぶり3人目となる厚真町観光大使に就任しました。9月1日付ですが、コロナ禍の影響で委嘱状を受け取ったのは10月8日。「委嘱を待ちわびました」。意欲満々の第一声を発した金澤さんにあふれる思いを伺いました。



厚真町観光大使に就任

Vol.19 かなざわ ちみょう
金澤 智明さん(55歳)

「厚い真心のまち」で歴史を刻みたい

めて見つかった中世陶器・常滑壺とこなめつぼなど、歴史や産業すべてに潜在力が宿るといいます。「歴史女としても、興味深い町なのです」。

北海道胆振東部地震から3年が過ぎ、復旧・復興の道を進んでいます。「町長を先頭に、町民の皆さんとスクラムを組ませていただき、厚真の底力を伝えていきたいと思っています」。自らを「コンシエールジュ(案内人)と呼び、町内にとどまらず他地域との連携を模索しながら、相乗効果を高めたいとの思いを抱いています」。

「肩書は少ないですが、キャリアと引き出しはたくさん持っています」と金澤さん。町の魅力を磨き上げ、他町村から『素敵なお手本になる町だね』といわれるような情報を発信していく「コンシエールジュを目指します」。

「厚真は『厚い真心』と書きまします。絆を大切に厚真の底力を伝えていきたい」

札幌市内に会社を設立し、オンラインライターなどの仕事をしています。町とのかかわりは、約6年前。町特産ハスカップのブランド化に基づいたPR誌の制作がきっかけで人脈が広がり、厚真に通うようになりました。特に、食べた新ジャガの味に衝撃を受けました。樽前山の噴火によって形成されたミネラル分が豊富な大地の「宝物」だと直感したそうです。

「他町村のメーカーインと食べ比べると、厚真産はナッツや栗のような香ばしさがあって感動しました」。厚真に恋をした瞬間でした。以来、町を総称して「厚真テロワール」と名付けました。テロワールは、フランス語で気候や風土に恵まれ、人を含めた魅力あふれる地域を意味します。昭和12年にブランド米に認定された「さくら米」や昭和27年に北海道内で初

あなたにとっての
愛すべき厚真を投稿してください



フェイスブック
@atsumatownhokkaido



インスタグラム
atsumalovers

ハッシュタグ#atsumaloversをつけてフェイスブックまたはインスタグラムに投稿してください。

ATSUMA LOVERS